

### 第3次日野市ごみゼロプラン策定委員会（第3回） 議事要旨

開催日時：平成27年9月29日(火) 9:00～12:00

開催場所：日野市クリーンセンター管理事務所 3階会議室

参加者：委員31名、日野市クリーンセンター職員（事務局）4名、パシフィックコンサルタンツ株式会社（PCKK）4名

#### （1）開会

#### （2）第2回策定委員会議事録の確認について

事務局より第2回策定委員会議事録の確認を行った。以下に主な質疑事項を示す。

（委員）第2回策定委員会で私が発言した施設更新計画について、平成21年3月に策定した施設建設計画に詳しく書かれていると答弁されているが、その内容を知りたい。

（事務局）日野市単独で稼働する計画であり、施設に関しては146t/日の処理能力を持ち、建設費は約82億円といった内容が記載されている。

（委員）施設建設計画策定後の平成21年6月に第2次ごみゼロプランが策定されているということは、平成21年3月策定の施設建設計画の内容を踏まえて第2次ごみゼロプランを策定したと考えてよいか。

（事務局）第2次ごみゼロプランは平成29年度を目標年次と定めたプランである。一方、施設建設計画で示している施設規模は平成27年度に検討している更新計画の中でのごみ量を基に決定した規模であるため、多少ずれが生じる。

（委員）時期的なずれはあるとしても、施設建設計画を策定する段階で議論した内容を踏まえていると理解してよろしいか。

（事務局）全く整合性がないわけではないが、ずれはある。

（委員）つまり、施設建設計画を策定する段階で議論した内容を踏まえていると理解してよろしいか。①（中谷委員）

（事務局）ご指摘のとおりである。

（委員）第2次ごみゼロプランの見直しについての発言が抜けている箇所がある。

（事務局）議事録の3ページの中頃に記載されていると思うが、いかがか。

（委員）発言した委員に確認したほうがよいのではないか。

（委員）本委員会の設置要綱に沿った協議及び進行が必要であると発言させていただいた。委員の役割は所掌事項に示されているとおりでである。また、第2次ごみゼロプランの見直しに関しては、第2次ごみゼロプランの中で未達成部分については今後も引き続き行うと評価されているため、そのことについて議論の必要があると述べたものである。

（事務局）ただ今のご意見に関しては、本日予定している「第2回策定委員会のご意見への対応について 2.委員会の進め方について」において、ご説明させていただく。

(3) 委員会傍聴に関する基準(案)について

事務局より委員会傍聴に関する基準(案)について説明を行った。以下に主な質疑事項を示す。

(委員) 示された傍聴基準案は傍聴者を排除するような記載に読み取れる。一人でも多くの市民に快く傍聴してもらえるような表現に変更すべきである。

(事務局) お示した傍聴基準は日野市の議会の傍聴基準を引用したものであり、傍聴者を排除するといった意図はない。修正案を作成し、再度お示しする。

(4) 第2回策定委員会のご意見への対応について

事務局より第2回策定委員会のご意見への対応について説明を行った。以下に主な質疑事項を示す。

(委員) 施設更新計画については本委員会で議論する必要はないように回答しているが、その点についてはどうか。施設更新計画は第2次ごみゼロプランに定められた専門部会を発足させておらず市民の意見を取り入れていないのではないのか。第2次ごみゼロプランにしたがって進捗していないにも関わらず、「将来的に焼却処理のみに頼らないごみ処理システムを構築するために、その他のリサイクルの可能性を検討」とはおかしいのではないのか。

(事務局) 焼却・リサイクル施設の更新に関して、施設の更新について意見を提出していただくのは構わないが、本委員会はあくまでもごみ減量計画を策定するための検討をする場であることをご理解いただきたい。

(委員) 施設建て替えについて終わっている話ということだが、もう少し詳しくご説明いただきたい。②(堀江委員)

(委員) 30年後のことを今考えるのか。②(土井委員)

(委員) 今後、処理量が増加することに対する検討も必要である。②(堀江委員)

(委員) 循環システム構築に関する議論は必要だと思う。②(井上委員)

(委員) 3市で連携してごみを減らす努力をすれば、広域化をしても現在の処理量より減るのか。

(事務局) 広域化による焼却施設の処理量の増加に対するご指摘かと思うが、あくまでも日野市のごみをどう減らしていくかを話し合う委員会であることを重ねてご理解いただきたい。また、その結果を3市に広げていくのは可能性として考えられる。

(委員) 処理方法や環境問題について検討する必要はないのか。

(事務局) 本委員会は日野市の環境問題についてメインとして議論する場ではなくごみ減量について議論いただくことが主をお願いしたいことである。ごみ減量に付随する話であれば、次の議題であるが、分科会テーマの中で提案していただき、皆さんが賛同するのであれば、そのような分科会を立上げて、議論していただきたい。

(委員) 処理方法や施設に関する内容よりも市民1人ひとりがごみを減量するために

はどうすればよいかを議論することが重要である。

- (委員) 近隣住民にとって、処理方法や施設に関することは重要な問題である。環境問題とごみ減量はセットで考えるべきである。③(白土委員)
- (委員) 広域化にあたって、ごみゼロを目標とする第1次・第2次プラン策定に携わった方々に検討の機会があったのか。
- (事務局) 第1次・第2次プラン策定に参加されたすべての方に説明したわけではないが、毎月開催しているごみ減量推進市民会議において広域化についてご説明させていただいている。
- (委員) 第2回策定委員会の資料4-2、循環システム計画の評価・課題・方向性(案)において、課題・方向性として提案されている内容に対して議論の余地がないというのはおかしいのではないか。
- (委員長) ごみゼロプラン策定という本来の目的から話が広がってしまっているため、一旦質問の内容を整理したい。施設更新計画については、決定事項であり変更が不可能な部分等について、市から説明いただきたい。
- (事務局) 施設の処理能力228t/日、煙突の高さ85m以上、プラスチック類の資源化を新施設稼働に合わせて実施することについては、市民の皆様方からのご意見を踏まえて変更した項目であるため、この部分を変更することは難しいと考える。その他の部分で変更可能な内容もあるかもしれないであるが、すべてのご意見を反映できるわけではないことをご承知いただきたい。
- (委員長) 焼却施設について議論してはいけないということではないが、ごみを減らすことが大きな目標であり、それに関連して環境負荷を下げていく、健康に配慮していく等あるかと思う。設置要綱の目的や所掌事項について再確認し、委員会の目的を意識しながら進めていきたい。
- (委員) プラン策定には市民と行政の信頼関係が重要だと思う。施設更新計画についても市民参加で検討すべき事項である。また、3市共同というが、日野市以外の2市の処理方法等についての説明もされていない。30年後を見据えた計画を立てるのあれば、やはり施設に関する議論、第2次プランの見直しが必要であると思う。
- (委員長) 議論の範囲について、市から分かりやすくご説明いただきたい。
- (事務局) プラスチック類の分別については、分別収集をすることは決定しているが、分別品目については検討中である。広域化については、専門部会は設けていないが、第2次ごみゼロプランのごみ量をもとに計画されており、さらに地元の皆様との話し合いの中で規模の縮小化を図った経緯があり、ごみ量を見直して施設規模を減らすような話はこの委員会の趣旨に沿わないことをご理解いただきたい。また、環境問題については現在アセスを行っており、そちらでご意見を伺う場を設けている。
- (委員) 日常生活のなかでどうごみを減量していくかを考えたくて参加した。分科会の早期形成を望んでいる。
- (委員) この場で議論した内容は新施設の規模には反映されないのか。

- (事務局) 現在の日野市のごみ量では計画の 228 t/日の炉では処理しきれず、さらなるごみ減量が必要な状況である。日野市の一人 1 日当たりのごみ排出量は減っているが、平成 26 年度の全体ごみ量は増えている。これは人口増加が原因である。この増量分は第 2 次ごみゼロプランで算出した数値に達しておらず、増えた約 1,300 t/年のごみを減らすための議論が必要であると考えている。
- 例えば増えた約 1,300 t/年を生ごみの処理で換算すると、大よそ 8,000 世帯の自家処理が必要となる。日野市が普及促進に努めているダンボールコンポストが 3 年間で 800 個販売されており、10 分の 1 の数であることから推測されるように、今後ごみ減量は継続して行っていかなければならない状況である。
- (委員) 第 1 回ごみゼロプラン策定時から主要課題のひとつであったはずの施設の更新計画について、市民が検討する場がないのはおかしい。広域化についても、3 市で協力してごみを減量する方法を市民参加で検討すべきである。⑤(中谷委員)
- (委員) 現在、小金井市の事業系ごみは自己処理を原則としているが、広域化の計画は小金井市の事業系ごみ 2,000 t を処理することを前提としている。そうした事実疑問を感じ、丁寧な議論が必要ではないかと思う。
- (委員長) 可燃ごみについては 3 市で広域処理を行うことが確定しているそうだから、小金井市の事業系ごみの処理に関しては、市に検討してもらおうというのもひとつの案ではないだろうか。
- (事務局) プラスチック類に関する市の取組みについて、ご説明させていただく。プラスチック類の分別内容については、これから検討していくところである。容器包装ではペットボトルとトレイの回収を考えている。不燃ごみ処理施設は 35 年前に建設され、処理能力は 50 t/日である。第 2 次ごみゼロプランの中でもプラスチックの分別回収が検討されたが、焼却施設の建て替え計画との関連もあり、遅れていた。近隣市町で、プラスチック製容器包装の回収をしていないのは確か 5 市である。その中でも日野市の取組みは遅れていると認識している。現段階の計画では、容器包装のほかに製品プラスチックについても分別を考えている。プラスチック類については全て資源化を考えている。
- (委員) プラスチック類の分別・回収に関して市民の意見を聞くことはないのか。
- (事務局) ごみゼロ推進協議会、本委員会の意見もお聞きしたいと考えている。
- (委員) 汚れたラップもプラスチック類か。
- (事務局) 汚れたものは焼却せざるを得ないため、洗って排出するよう、ご協力いただきたい。
- (委員) ペットボトルとトレイは現在、お返し大作戦をしている。拡大生産者責任の観点から、市で回収するのはやめてほしい。⑦(伊地知委員)
- (委員) 228 t の新施設で処理が追いつかず、さらなる減量が必要であると説明いただいたが、数値の意味が分かりにくい。⑦(久保田委員)
- (事務局) 228 t は日量であり、1,300 t は年間で減らすべき量である。

- (委員) 3市がそれぞれ減量努力をすれば、30年を待たずにごみゼロが実現するのではないか。30年後を考えるにしても、市民の日々のごみ減量に関して、もっと真剣に議論する必要がある。
- (事務局) 将来目標を立て、それに向かって取り組んでいくのがプランである。
- (委員) 新施設が稼働するまでは減量は難しいと思う。タイムラグを考える必要がある。⑧(小野寺副委員長)
- (委員) もっと全体の議論をしてから分科会に行くべきである。⑨(鮎澤委員)
- (委員) 設置要綱に即して進行すべきである。⑨(久保田委員)
- (委員長) ごみの減量に関する議論に時間をかけるべきだと思うが、いかがか。⑨
- (委員) 施設に関しても市民の合意形成が必要である。プラン策定には、ごみ減量だけでなく、施設のことを含め、全体的な議論をすべきである。⑨(中谷委員)
- (事務局) 広域化に関すること以外で、焼却に関する議論をしていただくのは構わない。⑨
- (委員) ごみ減量が目標なのであれば、排出抑制、搬入抑制、市民への周知だけの議論をすればよい。もっと論点を整理する必要がある。
- (委員長) 全体の委員会では3Rに重点を置き、それ以外は分科会で掘り下げて議論するような進め方をしたいと思うが、ご理解いただけるか。
- (委員) 第2次ごみゼロプランの大部分が循環システムに関連する話である。循環システムとは焼却炉の話ではない。
- (委員) 排出量の75%が焼却されているという事実をもっと重要視すべきである。⑩(中谷委員)
- (委員) 資料3 3. 更新計画が進捗しているとあるが、間違いはないか。⑩(堀江委員)
- (事務局) 間違いはない。⑩
- (委員) 会議がスムーズに進行するようお願いしたい。細かい部分については、委員会以外で勉強すればよいと思う。⑩(佐藤委員)
- (委員) 先程、全体の議論をもっとしてから分科会をという意見があったが、それに賛成である。必要であれば会議の回数を増やすのもよい。それについて皆さんの意見をお聞きしたい。
- (委員長) 会議を合理的に進めるために、事前に資料を確認し、できるだけ意見は市へ連絡していただく方法をとっていただきたい。また、会議の回数は増やせば意見がまとまるというものではなく、各分科会で出た意見を集約し、全体会議に上げるという方針が望ましいと思うが、いかがか。
- (委員) 最終的にごみをゼロにすることが目標であり、そのために議論すべきことはたくさんある。繰り返しになるが、スムーズな進行をお願いしたい。
- (委員) 分科会のテーマについてもっと議論したほうが、より内容が深まると思う。
- (委員長) 分科会テーマ案について先に説明させていただきたい。

#### (5) 分科会テーマ案について

事務局より分科会テーマ案について説明を行った。以下に主な質疑事項を示す。

- (委員) 設置要綱に記載のある「国分寺市及び小金井市と連携して取り組むべき事項」に関連するテーマがない。また、生ごみリサイクルに関しては、多数の市民が協力するよう、専門家を交えた体制を整える必要がある。生ごみリサイクルはごみ減量の要であり、分科会ですべきテーマではないのではないかと。
- (委員) はじめから専門家に頼るのでは市民参加の意味がないのではないかと。市民が議論して方向性を示し、専門家はそれを技術的にどう実現していくかを考えればよい。
- (事務局) 専門家については分科会の中で要望があれば事務局で検討させていただくが、今はまだその段階ではないと考えている。
- (委員) ①ごみ減量に関すること、④啓発活動や計画の推進に関すること、健康問題は全体会議で討論すべきである。
- (委員長) ①と④はご指摘のとおり全体に関連するテーマであるが、本会議に参加して頂いている皆さんの知恵を最大限に発揮させるためには、分科会で討論するほうが効率的であるとする。分科会に追加すべきテーマがあればお出しいただきたい。
- (委員) 広域化計画についての分科会がほしい。
- (事務局) 広域化の是非を討論するのではなく、連携すべき事項等の意見を出していただくような分科会ならば委員会の趣旨に合うと考えられる。
- (委員) 広域化が前提となっているのはおかしい。
- (委員長) 分科会の中身についての議論は、分科会が立ち上がってから実施していただければと考える。
- (委員) 啓発活動に関連して、市民がごみゼロへ向かって意欲を高めるような宣伝のようなものも必要かと思う。環境アセスの調査等についても詳しく知りたいので、そのような分科会があれば興味がある。
- (委員) 傍聴でもよいので、2種類の分科会に参加することは可能か。
- (事務局) 2種類の分科会に参加することも、日程が重ならなければよいと考える。環境アセス等に関する分科会をというご意見に関しては、④の中で意見を出していただければと思う。
- (委員) ①と④については別途時間を設けて全体で議論するのはどうか。皆さんの意見を聞きたい。
- (委員) 各分科会で集約した意見を全体会議で討論するのがよいと思う。先ほどの委員長の意見に賛成である。
- (委員長) 分科会のスケジュールが本日の資料に案として提示されているが、分科会で議論が終了するのではなく、分科会が出た意見を全体会で共有し、意見のやり取りを行うということをご理解いただきたい。

(6) 先進地視察先案について

事務局より先進地視察先案について説明を行った。以下に主な質疑事項を示す。

- (委員長) 先進地視察先について、委員会全体で行きたい場所のご意見があれば、伺いたい。また、事務局の提案としては、各分科会で個別に行くのも対応可能と聞いている。
- (委員) 分科会の少人数での視察は遠いところでなければ可能な限り対応いただけるとのことだが、遠いとはどの辺りをさすのか。
- (事務局) 全体で行くのであれば、近県等バスで日帰り可能な範囲である。分科会で個別に行くのであれば、委員の皆様にご負担をいただくこと等を勘案し、都内の周辺自治体を想定している。
- (委員) 今後、分科会で学習会等を行う場合には全員に通知すること、また、全体で視察するならば、新施設建設に向けて、現在市民に様々な情報を発信している町田市が勉強になると思う。
- (委員) 横浜市では焼却炉を2炉廃止したら小児ぜんそくが激減したという話を聞いたため、話を伺いたい。
- (委員長) 次回から分科会に入ってしまうため、他にも希望する視察先があるようであれば個別に意見をさせていただき、集約したものを事務局から提案する形でいかがだろうか。また、日野市のごみの最終的な行き先である二ツ塚の最終処分場を一度は見に行くということも検討していただきたい。

#### (7) その他

パシフィックコンサルタンツ(株)より、分科会希望調査票の提出期限、第2回勉強会の参加申し込み期限及び第1回分科会の開催日程に関して説明を行った。

#### (8) 閉会

以上